

■高校野球のケーススタディー（第11回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

- **本盗の際、投手が投球動作を中止してしまいましたが・・・**
今年6月の練習試合の中で実際に起きたプレイです。

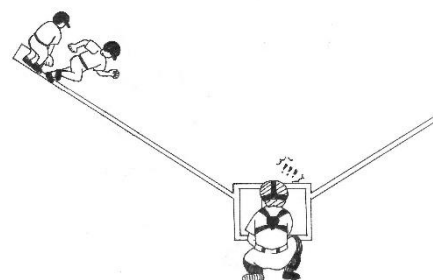
1 死走者3塁。3B-2Sで投手は、windアップポジションでゆっくりとした投球動作に入ったとき、3塁走者がスタート。投手は投球しようとしたが、3塁走者が本塁直前まで来ていたため、投球を中止。（投げ手を振ったものの、投球せずにボールを保持したままでした。）

さて、このケース、ルール上の取扱いはどうなるのでしょうか。

このケースですが、投手がwindアップポジションでの投球姿勢をとっていたため、3塁走者のスタートが早く、実際に投球しようとしたときには本塁近くに来ていたため、投球が走者に当たることと危惧して、咄嗟に投球動作を中止してしまったのかもしれない。

投手は投球動作を中止したため、ボークが適用され、得点1、1死走者なしで3B-2Sから試合を再開することになります。（規則6.02(a)(1)）

投手は、windアップポジション又はセットポジションにおいて、投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、投球を完了しなければなりません。（規則5.07(a)(1)(2)）



● それでは、上記のプレイを参考に少し状況を変えながら、起こりうるケースを見ていきましょう。

- ① **カウント3B-2Sで正規の投球をしたが、その投球が本盗を企てた3塁走者にストライクゾーンで触れた場合**

打者は三振でアウト。ボールデッドとなるが、走者の得点は認められる。

もし、他の塁にも走者がいる場合は、次塁への走塁行為があったかどうかに関係なく、1個の進塁が許される。（規則5.06(c)(8)、5.09(a)(14)）

※ このケースは1死ですが、2死の場合、打者の三振で3死となるため、3塁走者の得点は認められません。

② カウント 3 B - 2 S で正規の投球をしたが、その投球が本盗を企てた 3 塁走者にボールゾーンで触れた場合

打者は四球で 1 塁が与えられる。(規則 5.05(b)(1)) ボールデッドとなり、走者の得点は認められる。(規則 5.06(c)(8)) ①と同様でもし、他の塁にも走者がいる場合は、1 個の進塁が許される。

③ カウント 3 B - 2 S で投手が投げ切れずに投球動作の途中で、投手の手からボールがとび出した場合

ボールが投手の手から落ちたときただちにボークとなるため、得点 1、3 B - 2 S から試合を再開する。(規則 6.02(b)【原注】)

※ 塁に走者がいない場合は、投手の手からとび出したボールがファウルラインを越えたときだけ、「ボール」と宣告されるが、その他の場合は、投球とみなされない。(高校野球のケースタディー「第 2 回」参照)

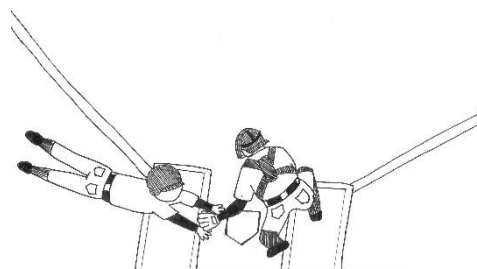
④ 捕手が本塁上またはその前方に出て投球を捕球した場合

投手にボークを課すとともに、打者はインターフェアによって 1 塁が与えられる。(規則 6.01(g))

得点 1、走者 1 塁から試合を再開する。

※ 捕手が打者または打者のバットに触れたときも同様の措置がとられる。

本塁上で生じるプレイでは、これらのほかにも捕手や打者による妨害など様々な事象があり、それぞれ異なったルールが存在します。指導者や選手の皆さんは、プレイに沿って正しくルールを理解することが大切です。



表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

表題デザイン：坂田 朋葉さん (3 年) 飛田 紀香さん (3 年)

イラスト：中川 早紀さん (2 年) 谷口 真奈佳さん (2 年)